

# 令和6年度 夢風船 事業報告書

## 1 総括

令和6年11月で夢風船は開設10年を迎えた。殆どの利用者は長年夢風船で過ごしており、(利用期間8年以上が8割、5年以上は9割)、安心して活動できているように見受けられる。また職員も半数以上が5年以上勤務しており、利用者との関係性や職員間のチームワークに安定感が感じられるようになってきた。ただし、その一方で、距離感の近さからくる利用者への配慮不足や問題行動への行き過ぎた対応が見られるときもあり、改めて自己点検や内部牽制の必要性を感じている。事業は安全の確保、利用者一人ひとりの気持ちの安定と可能性の伸長、健康保持、生活全般にわたる支援を重点に置きながら長年取り組んできているが、着実に成果を上げてきていると感じている。しかし、利用者やその家族の高齢化等の問題が徐々に顕在化してきており、特に健康管理や生活基盤の確立等において必要な支援の幅が広がりつつある。このような事態に対応するために、事業所内のみでなく、広く地域に目を向け、関係機関との連携強化や社会資源を活用する力等が今後益々求められるようになってきている。

## 2 事業概要

- 1) 事業所名 : 夢風船
- 2) 事業種別 : 生活介護
- 3) 所在地 : 東京都小平市小川町2-1931-1
- 4) 経営主体 : 社会福祉法人未来
- 5) 利用定員 : 20名
- 6) 利用現員 : 28名 (令和7年3月31日現在)
- 7) 法人認可年月日 : 平成14年12月11日
- 8) 事業開始年月日 : 平成26年11月1日
- 9) 職員 (令和7年3月31日現在)
  - 管理者 1名
  - サービス管理責任者 1名 (常勤換算1.0)
  - 生活支援員 17名 (常勤換算14.4)
  - 看護職 2名 (常勤換算1.6)
  - 嘱託医 1名

## 3 基本理念

- 1) 一人ひとりの自己実現の支援。
- 2) 互いの尊厳の尊重と信頼関係の構築。
- 3) 安心と希望の持てる生活。

## 4 基本方針

- 1) 日中活動の保障
- 2) 豊かな生活の支援
- 3) 利用者一人ひとりの主体的な生活の支援
- 4) 個別支援計画に基づいた計画的な支援
- 5) 利用者への相談支援
- 6) 安心できる将来への支援

## 5 実施事業 (活動内容)

- 1) 就労支援事業
  - ① 資源回収作業
  - ② 弁当箱配達回収作業
  - ③ 公園清掃受託作業
  - ④ シュレッダー作業
  - ⑤ PC入力作業
  - ⑥ 折紙製品作成事業
  - ⑦ その他受注作業
- 2) 生活支援事業
  - ① 入浴 (毎日)
  - ② 運動プログラム (ウォーキング・腹筋運動等)
  - ③ バイタルチェック (朝・入浴前)
  - ④ 余暇支援事業 (週3日程度)
- 3) 行事等
 

4月	利用者永年勤続表彰式
5月	運動会
6月	プラネタリウム鑑賞
7月	競馬博物館までドライブ
8月	川遊び
9月	清水牧場でアイスクリームを食べる
10月	焼き芋
11月	一泊旅行 (新潟県)
12月	忘年会 (バイキング食事・演芸大会)
1月	新成人を祝う会・書初め
2月	競馬博物館までドライブ
3月	遠足 (小金井公園)

## 6 日 課

開所・送迎	8:30～9:00
朝礼・活動準備	9:00～10:00
健康チェック	
活動の確認	
活動	10:00～11:30
作業 (資源回収作業／弁当配達回収作業／清掃作業／PC作業 等)	
作業 (室内軽作業)	
運動プログラム	
入浴	
昼食・休憩	11:30～13:30
昼礼	13:30～13:35
活動	13:35～15:50
作業 (資源回収作業／弁当箱回収作業／清掃作業／PC作業 等)	
作業 (室内軽作業)	
運動プログラム	
入浴	
終礼	15:50～16:00
送迎・清掃	16:00～17:00
職員打ち合わせ	17:00～17:30

## 7 重点課題・目標に対する成果と課題

### 1) 活動

#### 1 F—

##### (1) 利用者の主体性の向上に向けた活動

朝礼等の司会の他、利用者が参加する場面を設ける。また、作業内容や方法等について、自ら考える場面を増やし、活動に向けた意欲と主体性の向上を図る。

#### 【成果と課題】

これまでの継続した取り組みにより、朝礼等の司会や朝礼時の利用者自らの予定の報告等は定着している。また、作業や活動においても自分の考えを伝えることや、流れを理解し自主的に取り組むことが出来た。

#### 2 F—

##### (1) 利用者の安全確保

利用者個々の特性を理解のうえ、見守りの強化や精神的な安定に向けた環境設定やコミュニケーションにより、離接や他害行動、自傷行為などの防止を徹底する。

#### 【成果と課題】

多くの利用者が概ね安定して活動ができており、他害、離接等の問題行動は全般的に減少した状態を保っており、大きな事故に至った事案も発生しなかった。個々の利用者の特性等についての理解が進み、不安等原因の解消と見守りによる事故の事前防止がある程度できている。ヒヤリハットの記録から不穏化の傾向分析などを行い、原因の解明と対策により効果が出ている一方で、不穏化の原因がわからないこともまだ多く、他害等の問題行動の完全な消失に至っていない。

#### 1・2 F 共通—

##### (1) 利用者の生活全般にわたる支援の充実。

本人や家族の高齢化等による生活基盤が脆弱化しつつある利用者等に対して、相談支援の充実、衛生保持、健康管理、日常の軽微な事柄への支援、専門機関への連絡調整、将来の居住環境整備に向けた準備など幅広く柔軟な支援を行う。

#### 【成果と課題】

緊急時の4時以降の延長支援などのニーズに対して柔軟な対応を行っているほか、2名については後見人との連携により支援を行った。利用者28名の内10名はGH入居者、1名は施設入所支援の利用者だが、GH入居者は年々増加傾向にあり、関係機関との連携の重要性が年々増してきている（現在のところ、関係機関との連携は良く取れている）。また、家族の高齢化、疾病等により家庭の介護機能が低下しているケースも増えており、今後地域の社会資源の活用等による生活基盤の再構築や整備が益々重要になってくると思われる。令和5年1月から入院していた利用者については、市内で進めていた医療ケアが可能なグループホームへの移行計画が開設時期の遅れにより困難となったため、11月に群馬県と同じく医療ケアが可能なグループホームの入居が決まった。3月に面会に行った際、GHスタッフの話では元気に過ごしており、生活介護事業所にも週3日通所しているとのことであった（本人は寝ていたため話はしていない）。また、5月以降利用していなかった1名は、他の生活介護事業所に利用を変更し、2月に利用終了となった。

##### (2) 各利用者の可能性の発見と伸長にむけた活動（作業）の開拓と支援

活動や生活場面において、自分で考える機会の保障や継続により生活能力や作業能力の向上を図る。また様々な経験を通して能力や興味関心の発見とその伸長を目指すことで、一人ひとりがやりがいをもって生活できるように支援を行う。

## 【成果と課題】

作業の継続により、流れを理解し、自発的に作業に取り組むことは全般的に定着し、多くの利用者は利用開始後数年で継続力や集中力の向上が見られている。また、コミュニケーション能力、身辺自立、身体機能の維持向上のための取り組みなどは、利用者の状況に応じてその都度変更するなど丁寧に行ってきた。成果が見えにくい部分も多いが、学習による能力向上や機能低下の防止など等の効果を感じられる。長年続けてきた受注作業（期限切れの商品の廃棄）が、発注元の移転により8月で終了したが、それに代わる新規作業開拓は行えなかった。

### （3）健康管理の充実

- ① 新型コロナウイルスの感染症など感染症対策を徹底する。
- ② 一人ひとりの健康管理や衛生保持、また身体機能の維持向上を丁寧に行うとともに、疾病、けが等への迅速な対応を行う。

## 【成果と課題】

- ① 手洗い、消毒、換気、検温、マスクの着用など基本的な感染対策を実施し、事業所内での感染拡大は起きなかった。また3か月に1回感染症対策委員会を開催し、感染症の発生時状況や対策の実施状況について確認を行った。
- ② 毎日のバイタルチェック、入浴時の身体チェックによる健康管理や身体機能維持の為にリハビリ、また肥満防止、健康保持のためのウォーキングや腹筋運動等を継続的に実施した。肥満傾向のある方については、体重が減少傾向にあるか、または増加を防止できている方が約6割、増加が4割であった。本年7月から12月までの体重と血圧の変動のグラフを各利用者に配布した（この間肥満傾向12名中、体重減少2名、現状維持5名、増加5名）。また、利用者健康診断を8月にあきる台病院の検診車にて実施した。

## 2) 人材育成

- （1）リーダー層の育成
- （2）PDCAサイクルの実施による利用者支援スキルの向上。
- （3）職員間の連携協働体制の強化

## 【成果と課題】

- （1）日々の業務を通じて、職員の指導や事業管理等に主体的に取り組んだ。
- （2）日々のミーティングのケース検討の実施や、支援計画を意識した記録についての継続的な取り組みにより、PDCAサイクルの考え方は定着している。全般的に利用者との良い信頼関係が築けており、支援スキルの標準化が進んだ。職員と利用者の距離が近く、丁寧な支援が行われている一方で、前述のようにその近さから、利用者への無遠慮な対応や、問題行動への行き過ぎた対応が見られるときもあり、自己点検や内部牽制の強化がまだ必要であると感じている。
- （3）職員間のコミュニケーションは良く取れており、連携協働については考え方が定着している。

## 3) 経営管理

### （1）介護給付費の安定確保

- ① 1日平均利用者20人を目標とし、利用者の安定通所を図る。（令和5年度実績1日平均利用者21.0人、30人在籍、通所率70.8%）  
（具体的方策）
  - ・送迎場所や時間など柔軟な対応を行う。
  - ・健康状態の確認など家庭やグループホームとの連絡調整を密に行う。
- ② 職員配置数を維持し重度障害者支援加算の算定を継続する。

### 【成果と課題】

- ① 1日平均利用者数は22.6人となり、目標を上回った。また、昨年度同時期の数値22.2人も0.4人上回っている。長期欠席者2名（入院・在宅）の内、入院の1名は前述の通り、他県のグループホーム入居により利用終了となった。在宅の1名については5月から7月上旬まで週1回のペースで利用があったが、これ以外は欠席となり、2月に他の生活介護事業所の利用のため、利用終了となった。人員配置体制加算及び重度障害者支援加算の拡充、入浴支援加算の創設等の報酬改定の影響が大きく、給付費収入は昨年度の1億190万円から970万円増額し、1億1千160万円となった。
- ② 加算に必要な研修受講者数を満たし、重度障害者支援加算を継続した。

#### (2) 月次試算による状況分析

毎月の月次試算の分析を丁寧に行い、予算執行を計画的に行う。緊急的支出に対しては、充当資金の調達のため計画の優先順位を設定する。

### 【成果と課題】

月次試算分析により月々の経営状態は把握されている。緊急的な支出も発生しておらず、計画的な予算執行が行えている。

#### (3) 節電等による経費削減

水道光熱費や消耗品など、活動に影響が出ない範囲で節約意識を共有し、経費削減に努める。

### 【成果と課題】

使用していない場所の消灯など節電意識は全般的に向上しているが、照明等の消し忘れは、依然みられている。備品購入に伺い書を使用することで無駄な支出は抑えられている。

## 8 その他の成果と課題

- 1) 療養介護施設入居者1名の月1回の体験受け入れは、新型コロナウイルス感染症に対する入居先の施設の方針により令和2年3月を最後に実施できていない。

## 9 事故等報告

- 1) 5月 他の利用者の安定剤（昼食薬）を誤って服用させるという誤薬事故が発生した。複数の職員で確認するという決められた手順を遵守していなかったことが原因であり、服薬マニュアルについて全職員で再度確認を行った。服用した利用者には健康被害等はなかった。
- 2) 7月 利用者送迎後、夢風船に戻る際に駐車中の車両に接触し、相手車両の右前方窓ガラスとサイドミラーを破損。運転手以外に同乗者なく、怪我等なし。当方車両は車体に傷。警察に通報し物損事故扱いとなり、加入の保険により相手に賠償を行った。
- 3) 12月 資源回収作業での車両運転中、対向車とすれ違う際に電柱に設置の看板に車両が接触し、車体後方左側の窓ガラスを破損。運転手、同乗者（利用者3名、職員1名）に怪我等なし。警察に通報したが、看板に損傷なく事故扱いとはならなかった。

## 10 開所状況

- 1) 開所期間 自 令和6年4月1日 至 令和7年3月31日
- 2) 開所日数 (1) 週開所日数 5日間  
(2) 開所時間 午前9時～午後4時  
(3) 年間延開所日数 242日間（前年度 242日）  
(4) 平均活動時間 7時間

1 1 利用状況

- 1) 利用者延人員 5, 4 5 9人 (前年度 5, 3 6 3人)
- 2) 1日平均利用人員 2 2. 6人 (前年度 2 2. 2人)
- 3) 体験実習者延人員 7人 (前年度 5人)
- 4) 1日平均実習人員 0. 0 3人 (前年度 0. 0 2人)
- 5) 実習者実人員 5人 (前年度 4人)

1 2 利用者状況(令和7年3月31日現在)

1) 年齢

- 20歳以上30歳未満 18名
- 30歳以上40歳未満 3名
- 40歳以上50歳未満 5名
- 50歳以上60歳未満 3名

2) 障害の状況

- 愛の手帳1度 1名 (内身障手帳所持 1名)
- 愛の手帳2度 21名 (内身障手帳所持 3名)
- 愛の手帳3度 1名 (内身障手帳所持 1名)
- 愛の手帳4度 2名 (内身障手帳所持 1名)
- 身体障害者手帳1級 5名 (内愛の手帳所持 2名)
- 身体障害者手帳2級 4名 (内愛の手帳所持 3名)
- 身体障害者手帳5級 1名 (内愛の手帳所持 1名)

障害支援区分 平均障害支援区分 5. 5 (前年度 5. 4)

- 3) 通所手段 送迎車利用 28名 (内交通機関併用1名・家族送迎併用1名)  
家族送迎 2名 (内送迎者併用利用1名)

- 4) 居住状況 管内居住 18名 管外居住 11名

- 5) 性別 男性 23名 女性 6名

1 3 利用者工賃

平均工賃 1人 月額 : 4, 0 1 9円 日給 : 2 5 0円  
(前年度1人 月額 : 3, 8 8 1円 日給 : 2 4 3円)

1 4 余暇支援実習状況

- 1) 参加者 実21名 延べ438人 (令和5年度実績 実19名 延べ439人)
- 2) 延実施回数 : 130 (令和5年度実績137回)

月別実施状況	実施月	実施回数	延参加人数
	4月	: 13回	38人
	5月	: 11回	38人
	6月	: 12回	40人
	7月	: 12回	40人
	8月	: 9回	39人
	9月	: 11回	33人
	10月	: 9回	34人
	11月	: 11回	35人
	12月	: 10回	31人

1月	:	11回	40人
2月	:	11回	37人
3月	:	10回	33人
合計		130回	438人

内容別実施及び参加状況	内容	実施回数	延参加人数	(令和5年度実績)	
	ボウリング	24回	118人	(30回	131人)
	調理	24回	112人	(24回	110人)
	ドライブ	25回	89人	(27回	83人)
	散歩	16回	28人	(15回	23人)
	ゲームセンター	13回	43人	(11回	36人)
	入浴	12回	12人	(11回	11人)
	映画動画鑑賞	9回	11人	(11回	16人)
	散髪	5回	14人	(6回	19人)
	スイカ割り	1回	10人	(1回	9人)
	食事	1回	1人	(1回	1人)
	合計	130回	438人	(137回	439人)

#### 15 環境の整備

定期的に室内や建物周辺の清掃を実施し、年間を通して清潔な環境を保つことができた。

#### 16 防災

自衛消防訓練を年2回実施した。